



はすの会 会報 No.62

令和3年(2021年)8月31日発行
平成8年(1996年)11月1日初版発行

持明院「はすの会」事務局
〒530-0001
大阪市北区梅田1-3-1
大阪駅前第一ビル9階
株式会社高野山寺月会
電話：06-6348-0530
FAX：06-6348-0170
メール：renaku@hasunokai.jp
HP：www.hasunokai.jp

『平家物語』と高野山

「高野山は、帝城を避つて二百里、郷里をはなれて無人声、清嵐梢をならして、夕日の影しづか也。八葉の嶺、八の谷、まことに心もすみぬべし。花の色は林霧の底にほころび、鈴の音は尾上の雲にひびけり。瓦に松おひ、牆に苔むして星霜久しく覚えたり。」 卷第十一(高野巻)

『平家物語』に記載された、当時の人々を高野山へと誘う屈指の名文です。

『平家物語』の中には、他にも高野山に関係する印象的なエピソードが数多く記載されていますが、平清盛が高野山の根本大塔を改修した折り、弘法大師の幻と出会い、曼荼羅を奉納された逸話はよく知られています。 卷第三(大塔建立)

『平家物語』は、一二四〇年代の頃その原形がほぼできていたといわれる軍記物語で成立の謎は多いが、生みの親は、比叡山の座主を四度に亘り勤めた高僧慈圓とみられています。

豊富な戦力、広範囲に亘る情報力、仏教文学性を持つ表現力から慈圓が本命でしょう。

なぜ慈圓は、軍記物語の製作を意図したのでしょうか……。慈圓は世の為人の為に身命を捧げる型の宗教家で、偉大なる先人弘法大師を心から敬愛されていました。

世情は保元の乱以来、国家を二分する争乱になり悪疫の流行と相俟つて国家を衰亡させる危機をやらんでいました。慈圓にとって戦乱の犠牲者の慰霊、世の人々の安らかな生活の回復、国家の平穩を願うことが何よりも急務でした。

「祇園精舎の鐘の聲、

諸行無常の響きあり…」

卷第一(祇園精舎)の一節は、美文として周知されていますが、底流には、人の世のはかない運命、「おごれる者」は必ず滅びるといふ教えがあり、平家一門の浮かばれぬ諸霊を慰める深い祈りが感じられます。

慈圓はまた物語を通し、十三世紀以降人口に膾炙しつつあった弘法大師の入定信仰、高野山信仰をより一層奨めていく為多くの逸話や冒頭の誘い文を記載したと考察されます。

いま、世界はコロナと呼ぶ大疫と斗っています。弘法大師が高野山開創後間もなく、全国に悪疫が流行したが、「般若心経秘鍵」の述作(嵯峨天皇写経)の功德により悪疫が根絶した実例も有ります。万民の幸せを祈り、願う心を持たれたお大師さまに、一人一人が純粹な信仰心でぶつかっていくことが肝要です。

南無大師遍照金剛

南無大師遍照金剛

南無大師遍照金剛

『慈圓の歌』

「ありがたや 高野の山の

岩かげに 大師ははまだ

おわしますなる」

日々の心の在り方



持明院住職・竹内 崇雄

これを何と読みますか。中年以上の方なら、父母や諸先輩方から一度や二度は、見聞きされたことと思います。日常生活を営む上での心の在り方を分かり易く説いたものです。頓智小僧として有名な一休さん（禅師）が、ある人から「菩薩行とはどのようなことなのか、分かり易く教えてほしい」と問われ答えられた訓えだそうです。

「腹立てず、心は丸く、

気は長く、おのれ小さく、

人は大きく」

極めて平易なことばで説明の必要はないでしょう。



「菩薩」といえば、私たちは「観音さま」や「お地藏さん」の自愛に満ちた仏さまを思い浮かべます。日々「菩薩の行」を自らの心構えとして生きることなど恐れ多くとても考えにくいと思われるに違いはありませんが、一休さんのこのことばでは頑張れそうですね。

その心構えを持って日々努める人を私たちは「菩薩」と呼んでいるのです。

コロナ禍により日々制約が増え、ストレスが溜まる昨今、人間関係に悩むこともまた多く存在します。

一休さんのこの五つのことばを心構えとして日常生活が送れたらどれほど素晴らしいことでしょう。

合掌

はすの会より報告

「仏舎利宝塔のお色直し」

七年前に高野山開創千二百年記念の時に仏舎利宝塔地下安置室の大巾な改装工事、その三年後には地上の雨水、排水対策工事を終えめました。

そして、今年六月、長年に渡り高野山の厳しい風雪に耐えて来ました宝塔も外観が色褪せてまいりましたので仏舎利信仰の宝塔建立時の純白の姿にお色直しをさせていただきます。

一年半以上続くコロナ禍の高野山も、宿泊、観光、参拝、法要の来山者が往来出来なく大変寂しい状況が続いております。

そんな中高野山の各寺院、お土産物屋も清掃や補修が中心の業務となり、来る平穏な時期に訪れる方々に喜んで頂けるよう日々勤めております。道路の整備も進行中です。

近い将来をお楽しみにこれからも穏やかに過ごして下さい。



はすの会・会員便り

佐川様（鉏路市）

まるで夢を見ているような高野山での日々、ながい間の思いが叶えられとても倅せでした。ご多用のところご案内をいただき、迷ふ事なく、重要な処々を巡ることが出来、翌日もお大師さまのご廟のある聖地奥の院をたどり、心ゆくまで高野山の空気を満喫した旅となりました。改めて厚く御礼申し上げます。何もかもが読経に聞こえる日々でした。

息子に「何処かの寺院からお経の音が聞こえてくるね」と言ったら、「お母さん、誰かが草を刈っておられる音だよ」といわれ爆笑したことを思い出します。

帰宅後、今も尚朝のおつとめ（勤行）に参加しようと早く目覚める有様です。

息子が八百枚を超えて撮っていた写真の中から三百五十枚ほどを選び、アルバム二冊にまとめてくれました。お蔭さまでこれから幾度でも高野山を楽しむことができます。

帰宅後、亡き主人の十七回忌と姑の二十七回忌が待っていましたのと依頼していた外回りの工事も入り、それに加えて法事に来てくれた孫が私の実家のお墓参りもしたと連れだち弟子屈町まで行ってきました。

今、やっと一段落して少し落ち着いたところです。早く御礼をと思いながら、意のままにならずにおりました。

法事もコロナ禍の折ですので、すべて自宅で行い、読経もお寺さんと一緒に上げさせてもらい。かえって家族がひとつになった時間となりました。お寺さんもこういう事は珍しいと喜んで下さいました。これから神仏をあがめ、報恩謝徳の日々を念じて生きていきます。

この歳で念願の高野山に参詣、供養をさせていただき、帰宅後も法要雑事等恙なくやり終えた事に感謝して過ごして参りたいと考えています。主人には先立たれましたが、健やかに余生送ることが出来た難しいことと思います。

寺月会の皆様のご家族の中にも佛舍利宝塔に祀られ、尊いみ佛の絆

に護られておられる事も伺い、何もにもかえられない喜びを分かち合いたいと存じます。

持明院様をはじめ高野山における皆様方の数々のご親切身に沁みて嬉しく、息子共々御礼申し上げます。

かしこ

“ありがたき、佛の御名を唱えつつ
日毎夜毎の刻きわめゆく”

編集部より

佐川様は今春、緊急事態とまん延防止措置の合間を縫って遠路北海道よりお越しいただきました。

あらためてご縁に感謝しますとともに、これからも引き続きお付き合いの程宜しくお願い申し上げます。

はすの会スタッフ一同

高野での「コロナ禍の退魔祈願 高野の火祭り

高野山では毎年3月の初旬、「火祭り」という催しがあります。正式には「紫燈大護摩供」と言うものです。

これは、山伏の方々が高野山内で修行をするために、高野山への入山を許してほしい、と高野山に許可を得る儀式であります。

他山の場合は山の神様に許可を得るため、山への入口となる部分の木を切ったり草を刈ったりします。

高野山の場合はずでに道路網も整備されているため、形だけそのような動作を取り入れた式典を行います。

その際に大きな火を焚き、あわせて護摩供養も行いますので、昨年からコロナ禍に対する病魔退散の祈願も込められるようになりました。自由に見学できますので、毎年大勢の観光客が集まる、高野山の大きなイベントの一つとなっています。



秋季合同法要（参列見合わせ）について

会員の皆様方、一昨年より続いています新型コロナウイルス感染症の収束がなかなか見えてこない中、いかがお過ごしでしょうか。

この新型コロナウイルス感染症の蔓延状況の中、東京オリンピックは、無観客で閉幕を迎えましたが今もって感染症は、強いデルタ株に変わり猛威を振るい拡大傾向にあります。今年度の秋季合同法要も、会員の健康と安全を最優先に考えまして本堂内への不参加で執り行う事にさせて頂きます。会員様に於かれましてはこの秋の法要は大変心待ちにしている方も多くおられたかと思えます。我々スタッフも同様の思いでおりました。持明院住職の竹内崇雄大僧正も皆様へのご挨拶が二年に渡り出来ない事を大変残念に重い新型コロナウイルス感染症の状況が改善するのを祈り皆様が安心してご参列頂けるようになる事を願っております。

はすの会としましても、近い将来必ず今までと同じ様に皆様参列のもと合同法要を開催できるよう願っておりますので、それまでどうかご辛抱頂きたいと存じます。つきましては、今年度も

9月23日12時30分定期通り持明院本堂にてはすの会各家ご先祖様への法要は恙無く挙行致しますが、持明院館内並びに本堂への立ち入りはご遠慮願います。

仏舍利宝塔永代供養墓のご参拝、ご焼香は、終日対応致します。例年通りご参拝お待ち致しております。

また、秋季法要時間帯に持明院にてご焼香を希望される会員様に於かれましては、本堂前（外）にてご焼香頂けるよう、ご案内させて頂きます。

焼香時間

（12時30分～13時15分迄）

さらにこの秋季法要の模様は、後日はすの会ホームページにて動画配信する予定でございますので、閲覧の程宜しくお願い致します。

（掲載期間令和3年12月末日迄）

www.hasunokai.jp

別格本山持明院とはすの会事務局では、これからも会員様や高野山へお越し頂きます方に、安心して参り頂けるよう努めて参りますので、宜しくお願い申し上げます。



◆日時

令和3年9月23日（木祝）
12時30分より

◆場所

持明院・本堂

◆ご参加

会員の皆様のご参加は
ご遠慮ください。

（持明院の僧侶だけで執り行います）

●当日は仏舍利宝塔への参拝
は可能です。

（10時～15時30分）

●例年ではご希望者には昼食も募っておりますが、今回もこのようなことで、昼食のサービスは取りやめさせていただきます。